

## カテゴリー

---

神経系

## タイトル

---

脳卒中者の上肢機能の早期からの予後予測の観察ポイント

Presence of Finger Extension and Shoulder Abduction Within 72 Hours After Stroke Predicts Functional Recovery Early Prediction of Functional Outcome After Stroke: The EPOS Cohort Study

🔗リンク <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20167916>

Pubmed.Nijland et al 2010

## なぜこの論文を読もうと思ったのか？

---

・脳卒中片麻痺者の上肢機能治療に関わる事が多く、様々な観察の視点を増やしたいと思ったため。

## 内 容

---

### 背景・目的

・いくつかの前向きコホート研究の知見は、麻痺上肢を有する脳卒中患者の33%～66%が脳卒中の6ヶ月後に上肢機能の回復を示さないことを示唆している。5%から20%が6ヶ月で上肢機能の完全な機能回復を達成する。

・研究目的は、脳卒中後6ヵ月後の上肢機能に関する転帰が、脳卒中後72時間以内に測定された臨床パラメータを用いて予測できるかどうかを調査すること。

## 方法

・評価は発症後5日目および9日目の測定によって調べた。

・脳卒中後5および9日目に、188人の脳卒中患者においてARATと指の伸展運動・肩の外転運動の観察を測定した。

## 結果

・5・9日目にいくらかでも自発的な指の伸展と肩の外転を示す上肢障害の患者は、6ヵ月後にある程度の器用さを取り戻すための98%の確率を持っていますが、自発的な動きを示さない患者は25%の確率となっています。

・72時間以内にある程度の指の伸展を示す患者の60%がARATに関して、6ヵ月で完全に回復した。

**Table 3. Probabilities of Achieving Some Dexterity at 6 Months After Stroke**

ARAT $\geq 10$ at 6 Months						
FE	SA	True Negatives, N	False Negatives, N	False Positives, N	True Positives, N	P
Model for day 2, $P=1/(1+1*(EXP(-1.119+2.807*FE+2.149*SA)))$						
FM FE $\geq 1$	MI SA $\geq 9$					
+	+	38	12	8	98	0.98
+	-					0.89
-	+					0.71
-	-					0.25
Model for day 5, $P=1/(1+1*(EXP(-1.874+3.070*FE+3.075*SA)))$						
FM FE $\geq 1$	MI SA $\geq 9$					
+	+	38	6	8	104	0.98
+	-					0.78
-	+					0.78
-	-					0.14
Model for day 9, $P=1/(1+1*(EXP(-1.815+3.224*FE+2.449*SA)))$						
FM FE $\geq 1$	MI SA $\geq 9$					
+	+	38	6	8	104	0.98
+	-					0.80
-	+					0.65
-	-					0.14

N=156.

FE indicates finger extension; SA, shoulder abduction; FM, Fugl-Meyer; MI, Motricity Index.

## 私見・明日への臨床アイデア

・急性期より、患者を丁寧に観察し、丁寧に予後予測をしながら介入していきたい。手指の伸展、肩の外転などは経時的に観察するポイントであることが本論文より示唆され、積極的治療・学習性の不使用を予防できるように関わっていく事が推奨されると思われる。

氏名 shuichi kakusho

職種 理学療法士